

令和 3 年 6 月 13 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00318

研究課題名（和文）紀州地域の寺社圏における歴史叙述資料の文献学的研究 史的言説の集積と考証

研究課題名（英文）A philological study on the historical narrative documents housed in the temples and shrines in the Kisyu area: cataloguing and inquiring Historical discourses

研究代表者

大橋 直義 (OOHASHI, Naoyoshi)

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号：50636420

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000 円

研究成果の概要（和文）：当初の研究計画に基づき、道成寺文書の調査を遂行した。ただし、研究期間内に全点の調査・目録化を行なうまで至らず、引き続き、継続的な調査を行なう。道成寺文書に関連する研究成果としては、著書（分担執筆）1件、短報1件、学会発表（単独）1件（2021年度中に査読付き論文として公開予定）を公にした。

一方で、粉河寺・加太向井家（旧伽陀寺）・七宝瀧寺・神於寺など、葛城修験にかかわる諸寺について調査を行ない、その成果を学術論文および展覧会およびその図録として公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

第1に、本研究によって、学界および地域社会に向け、その存在と意義を新たに紹介しえた文化財が複数ある。いずれも、地域史・宗教文化史研究および国文学研究において有意義な資料である。第2に、特に道成寺文書群を分析することによって、重文『道成寺縁起』の前段階に（たとえば耕雲のような）臨済宗法燈派による縁起制作（改作・新作）が想定されうること、さらには法燈派と葛城修験との関係についても新たな知見を提示しえた。

研究成果の概要（英文）：A research on the Dojoji monjo has been conducted as originally planned. However, all documents of the Dojoji monjo could not be investigated and catalogued during this period. I think this research need to be continued. As study results about the Dojoji monjo, I released one book (coauthor), one misc. and one oral presentation. On the other hand, I made a progress of investigation of sacred documents housed in the temples related to Katsuragi Shugen, e.g. Kokawadera, Kada-Mukai-ke, Shipporyuji, Konoji. In consequence, I released some research papers, holded three Exhibitions and published the catalogs.

研究分野：日本文学

キーワード：縁起 歴史叙述 絵巻 葛城修験 法燈派 道成寺 七宝瀧寺 粉河寺

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、第一に道成寺に伝来する文書・聖教・典籍(以下、道成寺文書と称する)の調査・分析を軸に、道成寺および地理的/宗派的に近接する諸寺社の歴史叙述に関わる資料群を総合的に検討しようとするものであった。研究開始当初の段階で道成寺文書の目録は存在していたものの、極めて簡便かつ誤謬も多々含むものであり、何より現状の保存状況に即したものではなかったため、大まかな全体像を把握することに努めつつ、個別資料の目録化作業を進めた。

第二に、由良興国寺伝来の文書・聖教・典籍(興国寺文書)の調査・分析である。興国寺文書は、和歌山県立文書館および興国寺に保管されるものだが、主要資料の翻刻紹介は行なわれていたものの、その目録はやはり簡便なものにとどまっていた。本研究においては、道成寺蔵『道成寺縁起』(重要文化財)が興国寺に持ち込まれ、そこで足利義昭が披見したこと、南北朝期に再建された道成寺本堂の意匠に禅宗様式が用いられているという先行研究に着眼し、臨済宗法燈派総本山である興国寺と近傍の道成寺とを繋ぐ回路を興国寺文書および道成寺文書に見いだすことを目指した。

## 2. 研究の目的

第一に、道成寺文書および興国寺文書の調査・分析に着手し、その整理と目録化に努めることである。この点、道成寺文書に関しては進捗したもの(それでも全体の20%程度である)興国寺文書の整理・目録化についてはほぼ進展させることはできなかった。疫禍による遅滞という理由があったことは否めないが、むしろ積極的には、紀伊半島地域史を見わたす際に不可欠な西国三十三箇所順礼および葛城修験(葛城二十八宿)と、臨済宗法燈派および興国寺との関わりを想定しうるに足る資料複数を見いだしえたことにより、興国寺文書の外縁に位置すると推定される葛城二十八宿関連寺院の資料群に重点を置いて調査・分析を行なった。

第二に、道成寺と天台、および興国寺・臨済宗法燈派(および葛城二十八宿・西国順礼)に関わる寺院に伝来する歴史叙述資料を総合的に分析し、縁起言説相互の連関や矛盾を考証しつつ統合的な歴史を編もうとする営為の実像を明らかにすることである。この点については、後述の通り、道成寺創建縁起と重文本『道成寺縁起』との関わりについて集中的に検討することによって、一定の成果を得た。

## 3. 研究の方法

道成寺文書と周辺寺社(現 海士王子、紀道神社)における歴史叙述との関連については、道成寺創建縁起群を道成寺文書の中から抽出し、その特質を分析すると共に、道成寺に伝来する開帳興行関連資料群(絵画等を含む)諸国巡見使接遇資料群、聖護院・三宝院両門跡葛城入峯行接遇資料群をも全体から抽出・分析した。

その過程で、道成寺文書から、西国三十三箇所順礼縁起に関連する資料を新たに発見した(目録不掲載)。この資料と、主に中世禅林を発端として流布した順礼縁起とを比較検討すると共に、那智大社に伝来する資料群とあわせて検討することによって、そこに興国寺および臨済宗法燈派の関与をうかがわせる点があることを論じた。

上記、葛城入峯関連資料を調査・分析する途上、葛城二十八宿関連寺院の調査にも着手し、

粉河寺において新出絵巻を「再」発見し、そこにも法燈派の痕跡を見いだした。さらには加太向井家文書、七宝瀧寺文書・聖教、神於寺文書および縁起絵巻の調査を行うことで、泉州から紀州にいたる宗教文化と各寺社の歴史叙述(縁起)に研究開始段階には想定されていなかったネットワーク(特に臨済宗法燈派と西国順礼および葛城修験との関係性)が存在し、そこに足利義持期の古典学者であった耕雲もいたことが明らかになった。

#### 4. 研究成果

本研究の成果は、道成寺とその周辺の関連寺院、粉河寺・伽陀寺(加太向井家)・七宝瀧寺・神於寺などの葛城二十八宿関連寺院(特に粉河寺・七宝瀧寺は臨済宗法燈派との関係が明確となった)それぞれ、および西国三十三箇所順礼の創始にかかわる歴史叙述と、その言説を記しとどめた文書・典籍・絵巻・絵画について、多岐にわたる(著書5[うち分担執筆2・展覧会図録監修執筆3]、学術論文5(うち刊行予定2)、短報(Misc.)5、学会・研究会発表・講演12[うち国際会議1])。とりわけ、葛城二十八宿関連寺院が所蔵する文化財に関しては、本研究の研究期間内に3度の展覧会(図録有)を企画・開催した(いずれも和歌山大学 紀州経済史文化史研究所が主催する特別展・企画展の主担当となった)。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 大橋直義	4. 巻 4
2. 論文標題 [ 資料紹介 ] 灌頂雑集	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 きのみなと	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 大橋直義	4. 巻 5
2. 論文標題 巡礼とは何か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 きのみなと	6. 最初と最後の頁 2-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 大橋直義	4. 巻 6
2. 論文標題 延慶本『平家物語』と紀州地域	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 きのみなと	6. 最初と最後の頁 3-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 大橋直義	4. 巻 39
2. 論文標題 粉河寺御池坊蔵『粉河寺御池海岸院本尊縁起絵巻』翻刻と解題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 紀州経済史文化史研究所紀要	6. 最初と最後の頁 61-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00051020.39.61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大橋直義	4. 巻 69
2. 論文標題 小学校国語における狂言「柿山伏」：異文化理解にむけて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 人文科学	6. 最初と最後の頁 62-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257999.69.62	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大橋直義	4. 巻 69
2. 論文標題 「絵本」とアクティヴ・ラーニング：小学校における伝統的言語文化教育との融合を目指して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学	6. 最初と最後の頁 182-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19002/AN00257966.69.182	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大橋直義	4. 巻 66
2. 論文標題 道成寺創建縁起と『道成寺縁起』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中世文学	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋直義	4. 巻 1
2. 論文標題 天性寺蔵『蛸地蔵縁起絵巻』(天性寺聖地蔵尊縁起)についての覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Kii-Plusジャーナル	6. 最初と最後の頁 85-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋直義	4. 巻 7
2. 論文標題 [ 資料紹介 ] 紀伊続風土記稿本 零巻 (巻24 [ 海部郡仁義荘 ] 小原良直・倉田續旧蔵)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 きのみなと	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大橋直義	4. 巻 8
2. 論文標題 『道成寺縁起』書名 覚書	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 きのみなと	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[ 学会発表 ] 計12件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 『三国伝記』における寺社縁起
3. 学会等名 応永・永享期文化論研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 貫井裕恵・大橋直義
2. 発表標題 Progress of Archival Technology and Historical Materials during the Medieval and Early Modern Period in Japan
3. 学会等名 International conference Technological Changes and Society (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 七宝瀧寺縁起攷 外法成就の志一上人 .
3. 学会等名 公開シンポジウム「七宝瀧寺と日根荘 九条政基『旅引付』をめぐる」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 粉河寺の歴史叙述とその体系
3. 学会等名 関西軍記物語研究会 第92回例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 『七宝瀧寺縁起』と志一上人のことなど
3. 学会等名 第6回紀州地域学共同研究会研究集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 道成寺の縁起と芸能 南北朝から近世への道程
3. 学会等名 第6回紀州地域学共同研究会研究集会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 葛城修験二十八宿と加太・友ヶ島
3. 学会等名 紀州地域学研究交流会 21回例会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 七宝瀧寺縁起攷 外法成就の志一上人
3. 学会等名 和歌山大学紀州経済史文化史研究所公開シンポジウム「七宝瀧寺と日根荘 九条政基『旅引付』をめぐって」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 耕雲（花山院長親／子晋明魏）の寺社縁起制作
3. 学会等名 野沢セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 犬鳴山七宝瀧寺縁起攷 「外法成就の志一上人」をめぐって
3. 学会等名 関西軍記物語研究会 第98 回例会
4. 発表年 2020年



1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 道成寺創建縁起と『道成寺縁起』
3. 学会等名 中世文学会 2020年度 秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大橋直義
2. 発表標題 役行者伝と葛城修験
3. 学会等名 「葛城修験 - 里人とともに守り伝える修験道はじまりの地」日本遺産認定記念シンポジウム「加太・友ヶ島と和泉山脈の葛城二十八宿」 (招待講演)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 倉本一宏, 小峯和明, 古橋信孝編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 説話の形成と周縁 中近世篇 (分担執筆: :大橋直義「西国順礼縁起攷 附 道成寺蔵『古伝口訣 西国卅三所順礼縁起』翻刻」、pp.91-135)	

1. 著者名 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所編 (大橋直義監修・執筆)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所	5. 総ページ数 16
3. 書名 特別展図録 加太・友ヶ島の信仰と歴史 葛城修験二十八宿の世界	

1. 著者名 和歌山県立博物館編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 和歌山県立博物館	5. 総ページ数 288
3. 書名 和歌山県立博物館2020年度特別展図録『国宝粉河寺縁起と粉河寺の歴史（分担執筆：大橋直義「粉河寺縁起の中世的再編 『粉河寺御池海岸院本尊縁起』と和泉山脈山麓地域の宗教文化」、pp.133-134）	

1. 著者名 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所編（大橋直義監修・執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所	5. 総ページ数 16
3. 書名 特別展図録 七宝瀧寺と志一上人 葛城修験二十八宿の世界	

1. 著者名 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所編（大橋直義監修・執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所	5. 総ページ数 32
3. 書名 企画展図録 泉州 岸和田の宗教文化 高僧伝と寺社縁起	

〔産業財産権〕

〔その他〕

和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/news/2019011600107/">https://www.wakayama-u.ac.jp/kisyuken/news/2019011600107/</a>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------